

「産学が幅広く交流できる研究成果エキシビション」において、異なるバックグラウンドを持つ研究者の交流が生まれるような仕掛けや工夫について

1 対面の交流機会の計画的な設定

年間計画の中で、「研究成果エキシビション」の前には「キックオフミーティング（4月）」と「リトリート合宿（9月頃）」を設定しており、前者では顔合わせと自己紹介、後者でお互いの研究に関する深い理解の構築と意見交換の時間を設定しています。これら一連の機会によって徐々に交流は深まり、「研究成果エキシビション」を実施する頃には、若手研究者同士の距離はかなり縮まって自由でフレンドリーな空気感が醸成され、幅広い交流が出来ているように観察しております。

2 タスクフォースにおける異なるバックグラウンドをもつ若手研究者の意見反映

「研究成果エキシビション」の企画・運営は、フェロー、アソシエイト、企業アソシエイトから成る合計 5 名程度の幹事がタスクフォースとして実施しています。毎年、自分たちにとって有意義であり、参加したくなるイベントを目指してじっくりと意見交換を行って準備しています。そうした議論の過程で文系研究者や企業研究者の意見も取り入れられることで、交流しやすい内容、形式になるのではないかと考えています。

3 連携学術機関や連携企業とのきめ細やかなコミュニケーション

T-GEEx に参画いただいている連携学術機関や連携企業とは、毎年、事業推進委員懇談会（11-12 月頃）とコンソーシアム総会（3 月頃）で「研究成果エキシビション」を含む各種プログラムに関する意見交換を実施しています。また、アソシエイトや企業アソシエイトを輩出いただいている連携学術機関や連携企業とは、PMが中心となって個別オンライン面談も隔年で実施（9-11 月頃）しており、連携機関の若手研究者が参画したくなる（し易くなる）プログラムになるよう意見を丁寧にヒヤリングし、出来るだけ反映することを心掛けています。

4 開催場所の工夫

「研究成果エキシビション」には、コンソーシアム内外から多くの方に参加いただくことが重要なため、交通アクセスに優れた開催場所を選ぶよう工夫しています。また、特別講演、ショートプレゼン、ポスター発表等を基本的なセッションとして設定していますが、これらを連続して円滑に実施できるような開催場所を確保するように努力しています。特にポスター発表においては、オープンなスペースで自由にポスターを見て回り、活発に意見交換できるような空間で実施するように心がけています。

以上